

委員会報告1

出会いから交流

そして連携へ

YEG新時代に向け積極的に事業展開

総務委員会

副委員長 黒崎 功

総務委員会の担当した事項は、①委員会、総務委員会の運営、②規約、規定改定草案の作成、③大会立候補届けの送付、受付、④会費の他との委員会にも属さない事項である。

八年度はテーマとして、全国大会、全国会長研修会の開催地選定のためのルール作りに取り組んだ。

現行では、東・中・西各地区内の順序は決まっていますが、どこでも立候補出来、地区内でも複数の立候補があった場合、複数候補が激しくなり、三年に及ぶというところもあった。大会の誘致を競い合い、より素晴らしい大会を目指して取り組まなければならない。

また、全国一巡の原則、未開催優先の原則を追加した規程の改定案、七月の役員会に提出、承認されました。

また、商青連の負担した財政問題について、過去三年間のデータを分析、中長期的に安定した財政管理ができるよう検討を行った。

慣例的なものがあっても、各々が各々で議論の上、確認、明文化することができないだろうか。

このことを各地区に呼びかけ、地区別協議の開催を提唱しました。

総務委員会、地区別、ブロック別、県別の県勢状況分析表、全国を均一に廻る開催ブロックシミュレーション表を作成し、会議の参考にしていただきました。

六月より、数度にわたる熱心な討議の結果、十二月までに各地区のブロック開催順序がほぼ決定するに到りました。

また、本年は安本、博両監事に、総務委員会に所属していただき、随所で貴重な意見を伺うことが出来、委員会運営に幅が出来たと感じている。

八年度については、支出の抑制がめざましい結果、当面の危機は脱したものの、今後いわゆる団塊の世代の卒業等、会費収入の要因に對しなんらかの方策が講じられる必要がある。

その他、奈良全国大会における会長総会の運営、岩見沢の会長研修会に伴う会員総会の運営も総務委員会として取り組んだ。

また、本年度は安本、博両監事に、総務委員会に所属していただき、随所で貴重な意見を伺うことが出来、委員会運営に幅が出来たと感じている。

つながらないよう、大会内容の更なる充実を検討することを中心に、登録料の見直しを提案し、承認、今回の改定の運びとなりました。

全国九ブロックで開催されたブロック大会の成果を集大成し、更なる飛躍の場として、全国大会が昨年十一月十五～十六日に日本文化発祥の地、奈良県に於いて二十八年五十年の登録料、卒業式典に於ける稲葉日商会頭の記念講話、大懇親会、魅力的な分科会が開催されました。

特に通商産業省の支援を頂いた「YEGビジネス交流アラザ」と共に「YEG全国まちおこし物産展」の企画運営への指導も当委員会の担当のひとつでした。

さて、年度の締め括りは、「北からテイクオフ 極楽の地で熱くなれ!」を研修

会のスロウガンとし、三月四日にかけて開催された第十四回全国会長研修会(冒険北海道大会)への指導・助言ならびに現地視察移動委員会の開催がありました。

今年度から従来の中央研修会の名称を「全国会長研修会」とし、開催日をも単会・県連の当該年度とす。

次期会長予定者・商青連・向理事、担当事務局員の地域経済を担うリーダーとしての資質の向上と意識の高揚を図るとし、参加対象者も原則としてこれら該当者とし、より対象者を絞り込んだ研修会としました。

研修会は、登録数も拡大に重点を置き、原点到した研修会を企画し、活発な交流をして頂くことを目指し、青年部組織の活性化と一層の充実を目指すこと

今年度の委員会活動状況は、委員会担当最大事業として第十六回全国大会(奈良大会)への指導、助言ならびに現地視察移動委員会開催が第一に挙げられます。

当委員会では、今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

研修第一委員会

副委員長 相原 功

商青連では、地域活性化に向けた「YEG連帯事業」の実施を全国の青年部に提言し、「出会い」から「交流」そして「連携」をキーワードとする青年部活動への支援を柱とし、平成八年度「人が接点、地域が原点、掛け合いYEG連携」のスロウガンのもと、各種事業

活動を積極的に展開してきました。

その中でも、当委員会は商青連が主催する全国大会・全国会長研修会のコンセプトを早期に明示し、主幹地の円滑な開催準備のための適切な指導・助言を行う、主幹地と商青連との連絡、調整役の委員です。

今年度の委員会活動状況は、委員会担当最大事業として第十六回全国大会(奈良大会)への指導、助言ならびに現地視察移動委員会開催が第一に挙げられます。

当委員会では、今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度から従来の中央研修会の名称を「全国会長研修会」とし、開催日をも単会・県連の当該年度とす。

次期会長予定者・商青連・向理事、担当事務局員の地域経済を担うリーダーとしての資質の向上と意識の高揚を図るとし、参加対象者も原則としてこれら該当者とし、より対象者を絞り込んだ研修会としました。

研修会は、登録数も拡大に重点を置き、原点到した研修会を企画し、活発な交流をして頂くことを目指し、青年部組織の活性化と一層の充実を目指すこと

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

研修第一委員会

委員長 小村 龍之介

YEGセミナーとして翔生塾という一大イベントを終了することができた。そして、前年とスケジューリングに満足してもらえなかったことが委員会メンバーの悩みであり、チャレンジスピリットを沸かした。特に前年の委員会が行った翔生塾が好評に終了した。本年も翔生塾に参加希望が出ているという話を聞かされた。今年度委員会メンバーはプレッシャーを感じるとともに、参加者も満足を持って帰って来られるように頑張りました。

四月には早くも大阪での臨時委員会を開催して六月十八日のYEGセミナーについて又、翔生塾の講師選定を実施して、幸いにも思いもかけぬ講師を(八月一日付翔生に掲載)お願い

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

今年度の登録者数の減少に

委員長	(松戸)YEG
副委員長	(紀州)有田YEG
委員	(宮古)YEG
	(総社)YEG
	(鹿兒)高YEG
	(那覇)YEG
	(燕)YEG
	(岩国)YEG
	(高知)YEG
アドバイザー	
担当副会長	

委員長	(小林)YEG
副委員長	(石岡)YEG
委員	(秋田)YEG
	(館林)YEG
	(伊勢)YEG
	(相生)YEG
	(山鹿)YEG
	(八戸)YEG
担当副会長	

委員長	(小田)YEG
副委員長	(龍光)YEG
委員	(高史)YEG
	(高史)YEG
	(高史)YEG
	(高史)YEG
	(高史)YEG
	(高史)YEG
担当副会長	

委員長	(藤沢)YEG
副委員長	(扶山)YEG
委員	(米沢)YEG
	(中野)YEG
	(勝山)YEG
	(須崎)YEG
	(小城)YEG
	(高知)YEG
担当副会長	

委員長	(藤沢)YEG
副委員長	(扶山)YEG
委員	(米沢)YEG
	(中野)YEG
	(勝山)YEG
	(須崎)YEG
	(小城)YEG
	(高知)YEG
担当副会長	

特集 特別委員会

委員会報告2

公募連携活動推進レポート

特別委員会委員	委員長	鈴木 慎夫 (郡山YEG)	公募委員	松島 隆 (帯広YEG)
	副委員長	東浦 右智 (半田YEG)		石久和 (大館YEG)
	副委員長	松山 茂 (亀岡YEG)		六本木 信幸 (伊勢崎YEG)
	委員	小林 一磨 (滝川YEG)		松本 茂彰 (富山YEG)
		若菜 秀夫 (榑木YEG)		松本 茂彰 (豊田YEG)
	園 裕 (平田YEG)		松本 茂彰 (鯖江YEG)	
	森川 元明 (伊予三島YEG)		松本 茂彰 (岩国YEG)	
	樋口 良一 (別府YEG)		松本 茂彰 (松山YEG)	
	担当副会長	古泉 幸一 (亀田YEG)		松本 茂彰 (久留米YEG)

鈴木 慎夫

委員長・郡山YEG

「連携」の内容を示すとして、大館の明石、栃木の若菜、伊勢崎の六本木、豊田の松井、平田の東浦、亀岡の松山、鯖江の加藤、富山の松波、平田の園、岩国の榑木、伊予三島の森川、松山の野村、久留米の宗野、別府の樋口、そして、郡山の鈴木、これが特別委員会のメンバーである。そして、担当副会長は、亀田の古泉さんである。

「特別委員会」は、二年目を迎えた。「連携」委員会であるが、そこに参加した委員の「連携」ということに対する捉え方は様々であった。そして、それは、委員会がかりの状況ではなく、全国の各単会の「連携」に対する理解度も示している。われわれ委員会がアンケートを実施したのは、連携に関する事例を収集し、分類し、分析し、具体的な

松島 隆

公募委員・帯広YEG

私は公募委員として北海道からの参加でした。第一回目の長崎に初参加から来ては、「よく北海道の皆様より歓迎いただきました。今でも鮮烈に脳裏に焼き付いております。振り返りますと、その時の思いが私の一年間の原動力であったのではないかと思います。

大変ではありませんが、「地域連携」「商店街活性化」など全国共通の課題に取り組むことができました。全国各地で開催された委員会も、それぞれ地域で「歓迎いただいた」個々の文化、産業、食といった地域の特性を肌で感じることができ

明石 久和

公募委員・大館YEG

地域連携事業と特別委員会については「翔生」第二十一号に詳しく載っています。公募委員としての感想を述べさせていただきます。

まず第一に商青連でおもろいこととして、公募委員として出向する前は、雲の上の場所のように感じていて、第一回目の委員会は大変緊張しました。しかし皆さん気さくで十年の旧知のように接してくれます。それも大変積極的な人ばかり、これでは後込みばかりしておられませんか。

ミスター地域連携と云われている前商青連副会長の賢木さんから「地域連携の特別委員会ができるので、北東物流ラインを進める上でぜひ勉強してください。そして、暖かく支えてくれたYEG諸兄に感謝したい。

六本木 信幸

公募委員・伊勢崎YEG

今年、幸運なことに、公募委員として、商青連に出向する事ができ、全国多くの仲間と交流を深める機会に恵まれ、幸福な一年でありました。特に、伊勢崎YEGは、関東ブロック大と激励されたときは同じグループに酒造業をしている鯖江YEGの加藤さんがいることを心強、思ったものです。

公募委員は、商青連の役員会にもオプザバーとして出席が許されました。各役員の方々がいつも非常に真面目に、そして熱心にごとん会議を行う姿に感激すら覚えました。

夜の懇親会からは何うべくもありません。そういえば屋形船で、秋の夜の東京湾クルージングをした際、私は田舎もの故場所が良く判らず遅れしまし、一度出た船を引き返させて「この借りは必ずどこかで」と土下座したところがありました。

加藤 団秀

公募委員・鯖江YEG

今年度、松田会長の強い肝いりで私達公募委員が誕生したことは、私が公募委員になるまで知りませんでした。最初の委員会で鈴木委員長から、余りにもたくさん課題と松田会長の街づくりにかける強い情熱を聞き、大変な委員になったと思えました。大きく分けて二、インターネット、商店街活性化事業例の収集及び分析の三部門に別れてそれぞれ活動していきました。私は地域連携について活動していきましたが、正直なところ、能力のある他

樽井 浩

公募委員・岩国YEG

昨年四月に公募委員の皆さんと初めての出会って、「商青連」「特別委員会」「公募委員」の何も分からないままの皆さんとの出会いです。

昨日、年間を通じて全国各地での委員会活動に参加してまいりましたが、欠席も少々ありました。いろいろな方が居られました。「あ一言、一言」「あ一言、一言」等々色々ありますが、一共通して言えることは、

野村 忠秀

公募委員・松山YEG

この一年を振り返って、商店街、インターネット、地域連携、長崎のしっぽく料理、カリアックの夜なべ談義、浜松の鯉、ガラスの掛川市役所、嬉恋マハリゾート、桂文珍、瀬戸大橋、亀岡の夜道、彦根の新しいの商店街、屋形船、ならまちのスタンブラー、大阪、銀座etc...。それぞれに語り尽くせないエピソードがいくつあります。とくに、連携の第一歩は、顔を合わせ語り合うこと、

「期間を通じて、同じ目的に向かつて、一定の人が交わり会って、物事を進めていく」と頭のなかだけで、実際に体験させて頂けた事を感謝してこの活動を岩国YEGに持ち帰り伝えていきたいと思えます。

昨年四月に公募委員、特別委員会、商青連役員の皆様と出会ったことを感謝致します。

宗野 和博

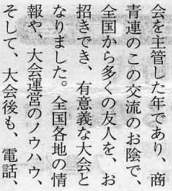
公募委員・久留米YEG

私達特別委員会は、「YEG連携事業」について調査研究を続けています。平成八年度は、前年度の委員会が「連携事業」の意味や意義についてまとめたのを受けて、具体的な事例の収集や事業展開の可能性について調査を進めて参りました。

正直なところ、最初の一、二ヶ月は今までの活動の経緯も良く分らず、「連携事業って何？」からのスタートでした。おそろしく皆さんもそれだと思いきや、残念ながらそれが現実であり、だからこそ私達公募委員の存在意義があるのかも知れません。各単会の集合体である商青連は大きな組織なるが故に相互理解が十分でないところがあることは否定できません。ひと



「地域連携」「商店街活性化」など全国共通の課題に取り組むことができました。



「あ一言、一言」等々色々ありますが、一共通して言えることは、

古都から未来へ向け発進

奈良全国大会報告



●全国大会実行委員長 乾安彦 (奈良YEG)

「第16回全国大会実行委員会」は、奈良県大会実行委員会から、奈良県大会実行委員会へ引き継がれ、奈良県大会実行委員会として活動している。奈良県大会実行委員会は、奈良県大会実行委員会として活動している。奈良県大会実行委員会は、奈良県大会実行委員会として活動している。

北の国に熱気が 満ちた

全国会長研修会報告



●北海道ブロック代表理事 入倉伸一 (岩見沢YEG)

「外に出たら危ない」と言っていた環境が、全国的にYEGの熱気で、いさゝか緩んだ感のある快晴の日、二月三日、四日の両日、北海道で平成八年度第14回、全国会長研修会が開催された。今年から全国会長研修会と名称が新たになり、全国から登録会員二百二十、六百八十名の参加を数えた。

最初に分科会I(記念講演)「セゾングループで活躍された井ノ上氏が、地域の活性化と人づくり」のテーマで、豊富な現場経験とエネルギーを語り、今後の事業活動に有意義な内容と感動を与えて下さった。分科会II(企業見学)「二十一世紀に向けて、関西・京都・奈良に広がる関西文化学術研究都市の企業見学。少しは日本の最先端技術を未知の世界を体験できるよ、三つのコーパスを設け、新しい奈良の顔を発見して頂きたい」と思っています。

次に商青連特別委員会の皆さまによるパソコンとビデオを使っての連携事業事例発表です。商青連事務局の試みの公募委員の活躍も見事でした。続きまして次年度の徳島大会、そして掛川の全国大会、そして掛川の全国会長研修会を主催する皆さんでそれぞれ力強くPRがなされました。

開会式は岩見沢市民会館、午後一時。全国の仲間が結集しました。北海道を誇る民謡「江差追分」を中学二年生瀧尾ゆきさんの独唱で、研修会が幕が切つておこられました。北海道の演出に「こたつおどり」の踊り、青年部の歌謡、国歌、青年部の歌謡、綱領朗読、指針唱和と続き、そして松田商青連会長の主催者挨拶、岩見沢商青連の優勝杯授与、岩見沢商青連長の歓迎の挨拶、引き続きご来賓の祝辞を頂き、開会式は厳粛のうちに終了いたしました。

北海道ブロック●滝川大会

「新たな時代 行動する勇気を!!」ブロック代表理事 入倉伸一 (岩見沢YEG)

北陸信越ブロック●砺波大会

文化と経済そして地球づくり ブロック代表理事 伏江 努 (高岡YEG)

関東ブロック●伊勢崎大会

共存・共生・共創の未来づくり ブロック代表理事 松井 正二 (掛川YEG)

平成8年度ブロック大会

YEG新時代に 向け、拡がった 連携フィールド 各ブロック代表理事からの報告

近畿ブロック●大津大会

21世紀を見つめて ブロック代表理事 川瀬 雅人 (彦根YEG)

九州ブロック●佐世保大会

1900名の 出会いと交流 ブロック代表理事 松川 茂 (佐世保YEG)

「新たな時代 行動する勇気を!!」を掲げ、商青連役員十名の参加を含め、四百名を越えた登録を含め、四日間の大会は、大成功を収めました。登録ありがとうございました。三月十一日は三時三十分から分科会I「パネリスカッション」を、「時代を創る地域の連携」をテーマにパネリスカッションに松田会長、F・C取締役会長の石水勲氏の記念講演を開催致しました。

「横浜市三三万人、愛知県豊田一七九万人、全国に、大小三三四四市町村がある。そこには、駅前名店街とか合併前の旧村単位の役割屋など、都合、全国約一六〇〇〇個の商店街がある。その現状は、いずれも衰退の一途である。これらの倒産化、荒廃、地産地消、管理放棄、森林など、経済循環システムの疲労・崩壊は、五五年体制の終焉とともに、更に拍車をかけた。白砂青松をコンクリートで固め、青い地球、緑の大地を傷つけ、そして振り返ればゴミの山、そんな今こそ、我々YEGは、このことへの猛省に立ち、共存・共生・共創の未来づくり、新しい時代の舵をとるべく船出する時である」と訴えた。

「横浜市三三万人、愛知県豊田一七九万人、全国に、大小三三四四市町村がある。そこには、駅前名店街とか合併前の旧村単位の役割屋など、都合、全国約一六〇〇〇個の商店街がある。その現状は、いずれも衰退の一途である。これらの倒産化、荒廃、地産地消、管理放棄、森林など、経済循環システムの疲労・崩壊は、五五年体制の終焉とともに、更に拍車をかけた。白砂青松をコンクリートで固め、青い地球、緑の大地を傷つけ、そして振り返ればゴミの山、そんな今こそ、我々YEGは、このことへの猛省に立ち、共存・共生・共創の未来づくり、新しい時代の舵をとるべく船出する時である」と訴えた。

御礼申し上げます。大会内容としては、式典に続いての第一部では、滋賀県出身の通産省情報管理課長・八幡和郎氏より「二十一世紀の関西を見つめて」と題して、行政施策等「ハード面からの切り口で近畿及び府県の現状と将来展望について基調講演を頂き、さらに比較山麓三宝冠住職・栢木寛昭氏からは「商売人としての哲学」と題し、経済人としての哲学をめぐっての特別講演を頂きました。そして、第二部パネリスカッションでは、講師の二人と松田商青連会長をパネラーに、商工会議所青年部が今後向かって行くべき方向性について議論して頂きました。

「新たな時代 行動する勇気を!!」を掲げ、商青連役員十名の参加を含め、四百名を越えた登録を含め、四日間の大会は、大成功を収めました。登録ありがとうございました。三月十一日は三時三十分から分科会I「パネリスカッション」を、「時代を創る地域の連携」をテーマにパネリスカッションに松田会長、F・C取締役会長の石水勲氏の記念講演を開催致しました。

「新たな時代 行動する勇気を!!」を掲げ、商青連役員十名の参加を含め、四百名を越えた登録を含め、四日間の大会は、大成功を収めました。登録ありがとうございました。三月十一日は三時三十分から分科会I「パネリスカッション」を、「時代を創る地域の連携」をテーマにパネリスカッションに松田会長、F・C取締役会長の石水勲氏の記念講演を開催致しました。

東北ブロック●会津若松大会

本音とアイデンティティの認識を ブロック代表理事 稲田 稔 (八戸YEG)

東海ブロック●関大会

未来への 熱いメッセージ ブロック代表理事 田中 健児 (関YEG)

中国ブロック●倉吉大会

地域の句 あらためて確認 ブロック代表理事 里見 泰男 (倉吉YEG)

「新たな時代 行動する勇気を!!」を掲げ、商青連役員十名の参加を含め、四百名を越えた登録を含め、四日間の大会は、大成功を収めました。登録ありがとうございました。三月十一日は三時三十分から分科会I「パネリスカッション」を、「時代を創る地域の連携」をテーマにパネリスカッションに松田会長、F・C取締役会長の石水勲氏の記念講演を開催致しました。

「新たな時代 行動する勇気を!!」を掲げ、商青連役員十名の参加を含め、四百名を越えた登録を含め、四日間の大会は、大成功を収めました。登録ありがとうございました。三月十一日は三時三十分から分科会I「パネリスカッション」を、「時代を創る地域の連携」をテーマにパネリスカッションに松田会長、F・C取締役会長の石水勲氏の記念講演を開催致しました。

「新たな時代 行動する勇気を!!」を掲げ、商青連役員十名の参加を含め、四百名を越えた登録を含め、四日間の大会は、大成功を収めました。登録ありがとうございました。三月十一日は三時三十分から分科会I「パネリスカッション」を、「時代を創る地域の連携」をテーマにパネリスカッションに松田会長、F・C取締役会長の石水勲氏の記念講演を開催致しました。

「新たな時代 行動する勇気を!!」を掲げ、商青連役員十名の参加を含め、四百名を越えた登録を含め、四日間の大会は、大成功を収めました。登録ありがとうございました。三月十一日は三時三十分から分科会I「パネリスカッション」を、「時代を創る地域の連携」をテーマにパネリスカッションに松田会長、F・C取締役会長の石水勲氏の記念講演を開催致しました。

「新たな時代 行動する勇気を!!」を掲げ、商青連役員十名の参加を含め、四百名を越えた登録を含め、四日間の大会は、大成功を収めました。登録ありがとうございました。三月十一日は三時三十分から分科会I「パネリスカッション」を、「時代を創る地域の連携」をテーマにパネリスカッションに松田会長、F・C取締役会長の石水勲氏の記念講演を開催致しました。

「新たな時代 行動する勇気を!!」を掲げ、商青連役員十名の参加を含め、四百名を越えた登録を含め、四日間の大会は、大成功を収めました。登録ありがとうございました。三月十一日は三時三十分から分科会I「パネリスカッション」を、「時代を創る地域の連携」をテーマにパネリスカッションに松田会長、F・C取締役会長の石水勲氏の記念講演を開催致しました。

商青連特別座談会 出席者 辻 正敏 (平成7年度会長) ■ 松田 祥吾 (平成8年度会長) ■ 大村 晴利 (平成9年度会長) ■ 吉本 博次 (平成9年度筆頭副会長) /司会 河井 達志 (平成8年度専務理事)

人を研き組織を研き更なる連携へ

商青連元服の年を迎え過去から未来へ託す



河井 本日は、お忙しい中お集り頂きまことに有り難うございます。商青連もいよいよ来年度、十五年という昔で言えば元服を迎える訳であります。やっと大人の仲間入りをするのかなあとそう思っているところですが、商青連が出来た二十一年目にして「翔ばたけ YEG」という本が、出版されてその歴史のものを理解し、それを糧として各青年部活動の指針として頂きたいという思いがあったわけですが、その後、辻さんが十三代、松田さんが十四代、そして次年度、第五代として大村さんが予定されているわけですが、将来へ向けて今後の商青連に期待することなどを、それぞれのご自分の年代を振り返り本日は少ない時間ですが、けれどもお話を載せたいと思います。まず十四代会長を、お務めいただいております。

辻 平成一年度から出向という事で、平成三年一月の松江での予定者会議から出席しました。この年がどういう年であったかというの、商青連がこのまですき始めた年であったわけです。平成二年に YEG という略称が出来ました。それは自分達の明確なスタンスを表現する何かが必要だと商青連みんなが思っていて来た訳ですが、それじゃこれからどうするかという

商青連の提唱で個人から地域への『動き』を起す

河井 「組織とその運営」という事を含めて、お話をしたけれど、その時、本日に獅子奮迅の活躍をされました。辻十三代会長いかがですか。

辻 平成二年度から出向という事で、平成三年一月の松江での予定者会議から出席しました。この年がどういう年であったかというの、商青連がこのまですき始めた年であったわけです。平成二年に YEG という略称が出来ました。それは自分達の明確なスタンスを表現する何かが必要だと商青連みんなが思っていて来た訳ですが、それじゃこれからどうするかという

三つのスローガンには共通して『人』への思いがある

河井 それでは連携をキーワードにしました、三人の方にそれぞれのスローガンについての思いを語って頂きたいと思っております。辻さんは感性を研ぎ、松田さんは人が接点でありその立脚するのは自分の地域です。というのを訴えかけておられます、大村次年度は、その地域に根ざした人達が直接交流、直接実感して旅立ち、というのがスローガンのねらいですね。人の心というものが三人のスローガンに流れて来ていると思えますが、これは、意図して出来たものではないと思うのですが、辻さんから何故、感性を研ぎ、スローガンをたてられたかお話し頂けますか。

辻 そうですね、感性を研ぎ、スローガンをたてられたかお話し頂けますか。

松田 とにかく、私達は地元で商売をさせて頂いているわけで、経済活動をやっていく人間として、まず

河井 最後に、次年度に期待する事をお話し頂き、本座談会の最後として、お話しください。

辻 とにかく、おもしろいこと、いいこと、思ったり下手減らないでやる事、それがない。全面的にバックアップしますので、頑張ってください。

特別委員会	①小委員会による同業種交流の研究と促進 ② YEG 連携事業の推進 ③ 「ビジネス交流」の場作りの企画、検討 ④ 地域資源及びブロック別会員名簿の活用
記念誌特別委員会 (特別委員会)	①商青連設立15年記念誌の発行 ②中長期ビジョンの策定
ブロック代表理事会議	①ブロック大会開催 ②「ブロック別会員名簿」の作成 ③各地青年部、都道府県連合会、ブロックの活動支援 ④県別、ブロック別諸会議の開催支援 ⑤未加入青年部の加入促進 ⑥青年部県連の設置促進 ⑦ブロック内へ商青連活動の情報提供

河井 私、全国大会を主管させて頂くという事で、平成七年年度から出向させて頂いたわけですが、本日は、感性を研ぎ、松田さんは人が接点でありその立脚するのは自分の地域です。というのを訴えかけておられます、大村次年度は、その地域に根ざした人達が直接交流、直接実感して旅立ち、というのがスローガンのねらいですね。人の心というものが三人のスローガンに流れて来ていると思えますが、これは、意図して出来たものではないと思うのですが、辻さんから何故、感性を研ぎ、スローガンをたてられたかお話し頂けますか。

河井 最後に、次年度に期待する事をお話し頂き、本座談会の最後として、お話しください。

辻 とにかく、おもしろいこと、いいこと、思ったり下手減らないでやる事、それがない。全面的にバックアップしますので、頑張ってください。

委員会名	検討事項
総務委員会	①会員総会、役員会の開催 ②日商会議との懇談会 ③規約改訂草案作成 ④ブロック大会開催への助言 ⑤その他 (他の委員会に属さない事項の検討) よび検討
企画委員会	①第17回全国大会 (徳島) への指導、助言 ②第15回会長研修会 (掛川) の企画、運営、助言 ③全国大会、全国会長研修会主催立候補届けの受理および検討
研修委員会	① YEG ヤングリーダー研修会の企画、開催 ②翔生塾の企画、開催
広報委員会	①機関誌「翔生」(第23、24号)の発行 ②「石垣」(会議所「ニュース」)への青年部活動の掲載 ③商青連活動の情報提供と会員拡大 ④青年部運営活動状況調査の実施



吉本 博次氏

河井 私、全国大会を主管させて頂くという事で、平成七年年度から出向させて頂いたわけですが、本日は、感性を研ぎ、松田さんは人が接点でありその立脚するのは自分の地域です。というのを訴えかけておられます、大村次年度は、その地域に根ざした人達が直接交流、直接実感して旅立ち、というのがスローガンのねらいですね。人の心というものが三人のスローガンに流れて来ていると思えますが、これは、意図して出来たものではないと思うのですが、辻さんから何故、感性を研ぎ、スローガンをたてられたかお話し頂けますか。

河井 最後に、次年度に期待する事をお話し頂き、本座談会の最後として、お話しください。

辻 とにかく、おもしろいこと、いいこと、思ったり下手減らないでやる事、それがない。全面的にバックアップしますので、頑張ってください。

委員会名	検討事項
総務委員会	①会員総会、役員会の開催 ②日商会議との懇談会 ③規約改訂草案作成 ④ブロック大会開催への助言 ⑤その他 (他の委員会に属さない事項の検討) よび検討
企画委員会	①第17回全国大会 (徳島) への指導、助言 ②第15回会長研修会 (掛川) の企画、運営、助言 ③全国大会、全国会長研修会主催立候補届けの受理および検討
研修委員会	① YEG ヤングリーダー研修会の企画、開催 ②翔生塾の企画、開催
広報委員会	①機関誌「翔生」(第23、24号)の発行 ②「石垣」(会議所「ニュース」)への青年部活動の掲載 ③商青連活動の情報提供と会員拡大 ④青年部運営活動状況調査の実施

河井 私、全国大会を主管させて頂くという事で、平成七年年度から出向させて頂いたわけですが、本日は、感性を研ぎ、松田さんは人が接点でありその立脚するのは自分の地域です。というのを訴えかけておられます、大村次年度は、その地域に根ざした人達が直接交流、直接実感して旅立ち、というのがスローガンのねらいですね。人の心というものが三人のスローガンに流れて来ていると思えますが、これは、意図して出来たものではないと思うのですが、辻さんから何故、感性を研ぎ、スローガンをたてられたかお話し頂けますか。

河井 最後に、次年度に期待する事をお話し頂き、本座談会の最後として、お話しください。

辻 とにかく、おもしろいこと、いいこと、思ったり下手減らないでやる事、それがない。全面的にバックアップしますので、頑張ってください。

委員会名	検討事項
総務委員会	①会員総会、役員会の開催 ②日商会議との懇談会 ③規約改訂草案作成 ④ブロック大会開催への助言 ⑤その他 (他の委員会に属さない事項の検討) よび検討
企画委員会	①第17回全国大会 (徳島) への指導、助言 ②第15回会長研修会 (掛川) の企画、運営、助言 ③全国大会、全国会長研修会主催立候補届けの受理および検討
研修委員会	① YEG ヤングリーダー研修会の企画、開催 ②翔生塾の企画、開催
広報委員会	①機関誌「翔生」(第23、24号)の発行 ②「石垣」(会議所「ニュース」)への青年部活動の掲載 ③商青連活動の情報提供と会員拡大 ④青年部運営活動状況調査の実施

河井 私、全国大会を主管させて頂くという事で、平成七年年度から出向させて頂いたわけですが、本日は、感性を研ぎ、松田さんは人が接点でありその立脚するのは自分の地域です。というのを訴えかけておられます、大村次年度は、その地域に根ざした人達が直接交流、直接実感して旅立ち、というのがスローガンのねらいですね。人の心というものが三人のスローガンに流れて来ていると思えますが、これは、意図して出来たものではないと思うのですが、辻さんから何故、感性を研ぎ、スローガンをたてられたかお話し頂けますか。

河井 最後に、次年度に期待する事をお話し頂き、本座談会の最後として、お話しください。

辻 とにかく、おもしろいこと、いいこと、思ったり下手減らないでやる事、それがない。全面的にバックアップしますので、頑張ってください。

委員会名	検討事項
総務委員会	①会員総会、役員会の開催 ②日商会議との懇談会 ③規約改訂草案作成 ④ブロック大会開催への助言 ⑤その他 (他の委員会に属さない事項の検討) よび検討
企画委員会	①第17回全国大会 (徳島) への指導、助言 ②第15回会長研修会 (掛川) の企画、運営、助言 ③全国大会、全国会長研修会主催立候補届けの受理および検討
研修委員会	① YEG ヤングリーダー研修会の企画、開催 ②翔生塾の企画、開催
広報委員会	①機関誌「翔生」(第23、24号)の発行 ②「石垣」(会議所「ニュース」)への青年部活動の掲載 ③商青連活動の情報提供と会員拡大 ④青年部運営活動状況調査の実施

河井 私、全国大会を主管させて頂くという事で、平成七年年度から出向させて頂いたわけですが、本日は、感性を研ぎ、松田さんは人が接点でありその立脚するのは自分の地域です。というのを訴えかけておられます、大村次年度は、その地域に根ざした人達が直接交流、直接実感して旅立ち、というのがスローガンのねらいですね。人の心というものが三人のスローガンに流れて来ていると思えますが、これは、意図して出来たものではないと思うのですが、辻さんから何故、感性を研ぎ、スローガンをたてられたかお話し頂けますか。

河井 最後に、次年度に期待する事をお話し頂き、本座談会の最後として、お話しください。

辻 とにかく、おもしろいこと、いいこと、思ったり下手減らないでやる事、それがない。全面的にバックアップしますので、頑張ってください。

委員会名	検討事項
総務委員会	①会員総会、役員会の開催 ②日商会議との懇談会 ③規約改訂草案作成 ④ブロック大会開催への助言 ⑤その他 (他の委員会に属さない事項の検討) よび検討
企画委員会	①第17回全国大会 (徳島) への指導、助言 ②第15回会長研修会 (掛川) の企画、運営、助言 ③全国大会、全国会長研修会主催立候補届けの受理および検討
研修委員会	① YEG ヤングリーダー研修会の企画、開催 ②翔生塾の企画、開催
広報委員会	①機関誌「翔生」(第23、24号)の発行 ②「石垣」(会議所「ニュース」)への青年部活動の掲載 ③商青連活動の情報提供と会員拡大 ④青年部運営活動状況調査の実施



辻 正敏氏

河井 私、全国大会を主管させて頂くという事で、平成七年年度から出向させて頂いたわけですが、本日は、感性を研ぎ、松田さんは人が接点でありその立脚するのは自分の地域です。というのを訴えかけておられます、大村次年度は、その地域に根ざした人達が直接交流、直接実感して旅立ち、というのがスローガンのねらいですね。人の心というものが三人のスローガンに流れて来ていると思えますが、これは、意図して出来たものではないと思うのですが、辻さんから何故、感性を研ぎ、スローガンをたてられたかお話し頂けますか。

河井 私、全国大会を主管させて頂くという事で、平成七年年度から出向させて頂いたわけですが、本日は、感性を研ぎ、松田さんは人が接点でありその立脚するのは自分の地域です。というのを訴えかけておられます、大村次年度は、その地域に根ざした人達が直接交流、直接実感して旅立ち、というのがスローガンのねらいですね。人の心というものが三人のスローガンに流れて来ていると思えますが、これは、意図して出来たものではないと思うのですが、辻さんから何故、感性を研ぎ、スローガンをたてられたかお話し頂けますか。

研げ感性、広げよフィールド YEG連携時代
人が接点 地域が原点 今、広げよう YEG連携
「直接交流・直接実感」連携そして共生へ YEG新たな出発

●平成7年度
●平成8年度
●平成9年度

日商稲葉会頭と商青連役員との懇談会



商工会議所のあり方等を質疑応答

れの中で、商工会議所は今後、一次産業も含めてオール産業会議所的な方向を模索する必要性はないか。

「しっかりとした政策であったり、国政の安定がやはり大事なことでないだろうか。しかし、不況克服対策や来年度予算編成などについては、将来に向けて国民に希望を与えるような具体的な施策の欠落が感じられる。今年度については、景気浮揚の観点から補正予算の編成が必要だ。規制緩和についても推進していくべきである。また、今回の小選挙区比例代表制選挙には、諸外国の視点の中に、日本の国民はまだまだ、民主主義に馴染んでいないなどの意見もある。反省すべき点は反省して改善が必要と思われ。」

「世界人口は増えているのに国内人口は減少している。近い将来、人の奪い合いが始まるのではないかと、また、そうなる企業規模が小さい企業では不利になる。これらの問題を解決するためには地域格差の解消や業種横断的な連携をどう図るかを考える必要はないでしょうか。また、経済五団体との関連や政治的な配慮も必要になってくる。また農業の企業化や諸規制の緩和、撤廃、法を取り巻く様々な問題に対応できるようにしなければならぬ。また今回の法定労働時間の四十時間制の導入により、人件費コストが十五%もアップするなどの問題を抱えるものもある。将来、オール産業会議所的になるかどうかは今このところ何とも言えないが、会議所の会員の中には農業加工品を取り扱う事業所も数多いので有機的な連携も必要であるだろう。その後質疑応答に入り、関連事項として松

第2回『地域連携を』考える会

商青連と若手官僚が意見交換

井関東アロック産業理事(掛川YEG)が代表理事になる必要性を含めて重ねて質問、次いで産業の空洞化や都心の人口減少の問題に関連し、鈴木特別委員長(郡山YEG)から建築基準法の改正を含め都心への人口回帰についての質問がなされた。会頭からは「モーサリゼーションの発展により東京でも都心の人口は減少している。例えば千代田区の昼の人口は百万人であるが、夜は二十四万人しかない。しかも老齢が多い。この打開策が注目される。」さらに大村副会長(大宮YEG)から大宮の御礼を含め次年度の商青連会長としての豊富について説明、最後に吉本理事(会立YEG)より奈良大会の内容説明があり、出席に対する謝辞があった後、松田会長が本日の御礼を申し上げた。

「世界人口は増えているのに国内人口は減少している。近い将来、人の奪い合いが始まるのではないかと、また、そうなる企業規模が小さい企業では不利になる。これらの問題を解決するためには地域格差の解消や業種横断的な連携をどう図るかを考える必要はないでしょうか。また、経済五団体との関連や政治的な配慮も必要になってくる。また農業の企業化や諸規制の緩和、撤廃、法を取り巻く様々な問題に対応できるようにしなければならぬ。また今回の法定労働時間の四十時間制の導入により、人件費コストが十五%もアップするなどの問題を抱えるものもある。将来、オール産業会議所的になるかどうかは今このところ何とも言えないが、会議所の会員の中には農業加工品を取り扱う事業所も数多いので有機的な連携も必要であるだろう。その後質疑応答に入り、関連事項として松

「よくそんなら中国に通って、何か良いことがあるのか」という質問をたくさん聞いた。秋田YEGの商青連の理事会に旅行カバンを持っていくものだから必然と海外出張と思っただろう。そもそも中国との出逢いは二十歳の世界旅行に始まる。黄河文明のように、揚子江を渡った時の印象が忘れられなかった。他の国の文明発生地がその多くを砂漠化したのに対して、中国のそれは、人、緑、水、そして更なる繁栄の中にある。そしてその中国は人口、資源、世界規模のネットワークをもつていて、世界の巨人になろうとしている。

「よくそんなら中国に通って、何か良いことがあるのか」という質問をたくさん聞いた。秋田YEGの商青連の理事会に旅行カバンを持っていくものだから必然と海外出張と思っただろう。そもそも中国との出逢いは二十歳の世界旅行に始まる。黄河文明のように、揚子江を渡った時の印象が忘れられなかった。他の国の文明発生地がその多くを砂漠化したのに対して、中国のそれは、人、緑、水、そして更なる繁栄の中にある。そしてその中国は人口、資源、世界規模のネットワークをもつていて、世界の巨人になろうとしている。

たものだと思っている。生活態度も、今ではめずらしい限りで、まっしぐらに目的に向かってすすむ姿は芸術的でさえある。私と中国との付き合いは多い年で、年間百五十日程、中国に出張する。回数にして十五、二十回になろうか。出張費分を手に入れることはそう簡単ではないが、人の温もりや日本には失われた人付き合いに含み度で喜びがこみあげて来る。これで中国語を自由につかえたら、水仕も悪くない。

「よくそんなら中国に通って、何か良いことがあるのか」という質問をたくさん聞いた。秋田YEGの商青連の理事会に旅行カバンを持っていくものだから必然と海外出張と思っただろう。そもそも中国との出逢いは二十歳の世界旅行に始まる。黄河文明のように、揚子江を渡った時の印象が忘れられなかった。他の国の文明発生地がその多くを砂漠化したのに対して、中国のそれは、人、緑、水、そして更なる繁栄の中にある。そしてその中国は人口、資源、世界規模のネットワークをもつていて、世界の巨人になろうとしている。

市(の)対外経済委員会と外資導入のための役所であり、大地の王のモデルになり、大田山製鉄所他幾つかの工場だったが、皆、口を揃えて、中国は成長を遂げて資本は保証せず、税制も優遇は保証して下さう、というものでした。

YEG、起業家集団とは、RISKTAKEであり、リスクを恐れないものですが、コネとか人脈が日本以上に重要な要素であり、コトを進めるに当たってはワイロが必要と聞いています。また、成功して現地に定着したという話も聞いていません。慎重にならざるを得ないのが現状です。

最後になりましたが、この視察旅行を手配してくれ、秋田YEGの佐々木さん、海外でも見事なりターニングを発揮された松田会長、繊細な気配りをしてくれた河井専務他愉快な仲間感謝して報告記と致します。謝辞。

商青連の事業の中に、毎年、日商の会頭と商青連役員とが時局や時世の問題について、また商青連の諸活動について懇談をする企画があります。出席する役員は一部ですが、会頭の多忙な職務の中で貴重な時間を割いての懇談ですから、出席する役員は緊張して座っているのです。一時間弱の時間なので全員が質問をする時間は当然ありません。従って、事前に質問したい事項を集めておいて、絞り込みをし、二つくらいテーマにまとめて、会頭に出しておきます。また、当日は会長を始め代表が何人が質問をする段取りをして時間を有効に活用できるようにして懇談会に望む事になります。今年度は十月二十二日(火)、東商ビルの八階にあるスカイルームで行われました。なお、懇談テーマの設定にあたっては、プロック大会の会長会議において

インフォメーション致しましたように、各アロックや県連からの意見を参考とさせていたされました。その内容については後に述べます。

さて、当日は稲葉会頭との記念撮影を短時間で済ませ懇談に入りました。専務理事である私の進行で開会し、まず挨拶を兼ねて松田商青連会長から今年の年間スローガン「人が接点、地域が原点、今、脱けようYEG連携」の挨拶と商店街の疲弊の問題、その中の商工会議所と青生部の関わりおよび会議所活動について、全国を廻って感じたことを述べた。

次に稲葉会頭から次の二つのテーマについてお話を頂きました。

「世界人口は増えているのに国内人口は減少している。近い将来、人の奪い合いが始まるのではないかと、また、そうなる企業規模が小さい企業では不利になる。これらの問題を解決するためには地域格差の解消や業種横断的な連携をどう図るかを考える必要はないでしょうか。また、経済五団体との関連や政治的な配慮も必要になってくる。また農業の企業化や諸規制の緩和、撤廃、法を取り巻く様々な問題に対応できるようにしなければならぬ。また今回の法定労働時間の四十時間制の導入により、人件費コストが十五%もアップするなどの問題を抱えるものもある。将来、オール産業会議所的になるかどうかは今このところ何とも言えないが、会議所の会員の中には農業加工品を取り扱う事業所も数多いので有機的な連携も必要であるだろう。その後質疑応答に入り、関連事項として松

「世界人口は増えているのに国内人口は減少している。近い将来、人の奪い合いが始まるのではないかと、また、そうなる企業規模が小さい企業では不利になる。これらの問題を解決するためには地域格差の解消や業種横断的な連携をどう図るかを考える必要はないでしょうか。また、経済五団体との関連や政治的な配慮も必要になってくる。また農業の企業化や諸規制の緩和、撤廃、法を取り巻く様々な問題に対応できるようにしなければならぬ。また今回の法定労働時間の四十時間制の導入により、人件費コストが十五%もアップするなどの問題を抱えるものもある。将来、オール産業会議所的になるかどうかは今このところ何とも言えないが、会議所の会員の中には農業加工品を取り扱う事業所も数多いので有機的な連携も必要であるだろう。その後質疑応答に入り、関連事項として松

「世界人口は増えているのに国内人口は減少している。近い将来、人の奪い合いが始まるのではないかと、また、そうなる企業規模が小さい企業では不利になる。これらの問題を解決するためには地域格差の解消や業種横断的な連携をどう図るかを考える必要はないでしょうか。また、経済五団体との関連や政治的な配慮も必要になってくる。また農業の企業化や諸規制の緩和、撤廃、法を取り巻く様々な問題に対応できるようにしなければならぬ。また今回の法定労働時間の四十時間制の導入により、人件費コストが十五%もアップするなどの問題を抱えるものもある。将来、オール産業会議所的になるかどうかは今このところ何とも言えないが、会議所の会員の中には農業加工品を取り扱う事業所も数多いので有機的な連携も必要であるだろう。その後質疑応答に入り、関連事項として松

「世界人口は増えているのに国内人口は減少している。近い将来、人の奪い合いが始まるのではないかと、また、そうなる企業規模が小さい企業では不利になる。これらの問題を解決するためには地域格差の解消や業種横断的な連携をどう図るかを考える必要はないでしょうか。また、経済五団体との関連や政治的な配慮も必要になってくる。また農業の企業化や諸規制の緩和、撤廃、法を取り巻く様々な問題に対応できるようにしなければならぬ。また今回の法定労働時間の四十時間制の導入により、人件費コストが十五%もアップするなどの問題を抱えるものもある。将来、オール産業会議所的になるかどうかは今このところ何とも言えないが、会議所の会員の中には農業加工品を取り扱う事業所も数多いので有機的な連携も必要であるだろう。その後質疑応答に入り、関連事項として松

「世界人口は増えているのに国内人口は減少している。近い将来、人の奪い合いが始まるのではないかと、また、そうなる企業規模が小さい企業では不利になる。これらの問題を解決するためには地域格差の解消や業種横断的な連携をどう図るかを考える必要はないでしょうか。また、経済五団体との関連や政治的な配慮も必要になってくる。また農業の企業化や諸規制の緩和、撤廃、法を取り巻く様々な問題に対応できるようにしなければならぬ。また今回の法定労働時間の四十時間制の導入により、人件費コストが十五%もアップするなどの問題を抱えるものもある。将来、オール産業会議所的になるかどうかは今このところ何とも言えないが、会議所の会員の中には農業加工品を取り扱う事業所も数多いので有機的な連携も必要であるだろう。その後質疑応答に入り、関連事項として松

「世界人口は増えているのに国内人口は減少している。近い将来、人の奪い合いが始まるのではないかと、また、そうなる企業規模が小さい企業では不利になる。これらの問題を解決するためには地域格差の解消や業種横断的な連携をどう図るかを考える必要はないでしょうか。また、経済五団体との関連や政治的な配慮も必要になってくる。また農業の企業化や諸規制の緩和、撤廃、法を取り巻く様々な問題に対応できるようにしなければならぬ。また今回の法定労働時間の四十時間制の導入により、人件費コストが十五%もアップするなどの問題を抱えるものもある。将来、オール産業会議所的になるかどうかは今このところ何とも言えないが、会議所の会員の中には農業加工品を取り扱う事業所も数多いので有機的な連携も必要であるだろう。その後質疑応答に入り、関連事項として松

「世界人口は増えているのに国内人口は減少している。近い将来、人の奪い合いが始まるのではないかと、また、そうなる企業規模が小さい企業では不利になる。これらの問題を解決するためには地域格差の解消や業種横断的な連携をどう図るかを考える必要はないでしょうか。また、経済五団体との関連や政治的な配慮も必要になってくる。また農業の企業化や諸規制の緩和、撤廃、法を取り巻く様々な問題に対応できるようにしなければならぬ。また今回の法定労働時間の四十時間制の導入により、人件費コストが十五%もアップするなどの問題を抱えるものもある。将来、オール産業会議所的になるかどうかは今このところ何とも言えないが、会議所の会員の中には農業加工品を取り扱う事業所も数多いので有機的な連携も必要であるだろう。その後質疑応答に入り、関連事項として松

開放政策のもと、世界の巨人に

たものだと思っている。生活態度も、今ではめずらしい限りで、まっしぐらに目的に向かってすすむ姿は芸術的でさえある。私と中国との付き合いは多い年で、年間百五十日程、中国に出張する。回数にして十五、二十回になろうか。出張費分を手に入れることはそう簡単ではないが、人の温もりや日本には失われた人付き合いに含み度で喜びがこみあげて来る。これで中国語を自由につかえたら、水仕も悪くない。

「よくそんなら中国に通って、何か良いことがあるのか」という質問をたくさん聞いた。秋田YEGの商青連の理事会に旅行カバンを持っていくものだから必然と海外出張と思っただろう。そもそも中国との出逢いは二十歳の世界旅行に始まる。黄河文明のように、揚子江を渡った時の印象が忘れられなかった。他の国の文明発生地がその多くを砂漠化したのに対して、中国のそれは、人、緑、水、そして更なる繁栄の中にある。そしてその中国は人口、資源、世界規模のネットワークをもつていて、世界の巨人になろうとしている。

市(の)対外経済委員会と外資導入のための役所であり、大地の王のモデルになり、大田山製鉄所他幾つかの工場だったが、皆、口を揃えて、中国は成長を遂げて資本は保証せず、税制も優遇は保証して下さう、というものでした。

小暮高史

八年ぶりに訪ねた中国、北京は激変していた。もう、昔に近い昔の事、まして

「よくそんなら中国に通って、何か良いことがあるのか」という質問をたくさん聞いた。秋田YEGの商青連の理事会に旅行カバンを持っていくものだから必然と海外出張と思っただろう。そもそも中国との出逢いは二十歳の世界旅行に始まる。黄河文明のように、揚子江を渡った時の印象が忘れられなかった。他の国の文明発生地がその多くを砂漠化したのに対して、中国のそれは、人、緑、水、そして更なる繁栄の中にある。そしてその中国は人口、資源、世界規模のネットワークをもつていて、世界の巨人になろうとしている。

市(の)対外経済委員会と外資導入のための役所であり、大地の王のモデルになり、大田山製鉄所他幾つかの工場だったが、皆、口を揃えて、中国は成長を遂げて資本は保証せず、税制も優遇は保証して下さう、というものでした。



懇談後、大連市科学技術委員会の方々との記念撮影



第17回商工会議所青年部全国大会

来てみり!見てみり!阿波の国 徳島

平成九年度「第十七回商工会議所青年部全国大会」は徳島県商工会議所青年部連合会主管のもと、徳島市において開催された。

四国の東部「四国三郎」の異名を持つ、吉野川」の流域に広がる徳島県は「阿波

来てみり! 見てみり! 阿波の国

●平成9年11月20日(木)・21日(金)

平成九年度「第十七回商工会議所青年部全国大会」は徳島県商工会議所青年部連合会主管のもと、徳島市において開催された。

踊りと池田高校」で全国的に知られています。主たる開催地の徳島市は、この吉野川の河口、三角州に位置しています。町は、多数の河川で仕切られており、徳島県庁前には、ケンチヨビアの愛称で親しまれているヨットハーバーがあります。

又、メイン会場のアステイ徳島、サブ会場の新町川水際公園も川沿いにあり「親水都市」徳島を彷彿とさせます。「踊る阿呆に見る阿呆」阿波踊りは、毎年八月十二、十三日の徳島市を中心に県内各地で繰り広げられますが、祭りは、参加型の祭りの特徴をもっています。老若男女全ての人が気軽に参加し楽しめるものです。全国の青年部の仲間が皆さんには、この荷物にならないおみやげとして阿波踊りに一緒に参加していただくことを考えています。大会に参加されますとキット「徳島す」よ!



●大会会長 北島 重利



●大会実行委員長 東條 重之

徳島は、かつて「藍」で栄え、明治の市制施行時においては、全国八位の人口を誇り「藍商」は、近江商人、伊勢商人と並んで全国に進出していました。この繁栄も化学染料の開発により急速に衰退していったのです。今日、県民人口は、八十三万人、徳島市の人口は、二十万人となり、全国一の〇・五%経済にあまっています。

来春明石大橋の開通により徳島は、関西経済圏と直結することとなります。希望と不安を併せ持つ明石大橋の開通が、二十一世紀にむけた「化学染料」にしないためにも徳島の経済人とりわけ若きYEGのメン

バーの奮起が求められています。この時期に、徳島県商工会議所青年部連合会は、まさしく連携を祈り、共生へを実践する輝かして、全国大会開催の榮譽をいただいたのです。

私たちは、大会は、「商工業の発展、自分の企業の発展の為にある」との商青連の理念に則り、一年間の連携の結節点と考えています。大会スローガン「97徳島発 今、始まる世界連携新時代」は、徳島県連の二十一世紀、明石大橋開通を目前にした徳島県連会員の決意の表明です。田舎からの情報発信が極めて簡単となったニューメディア時代を自らのものにするためにインターネットにホームページを開設し、大会を契機に電子メールを活用した大会運営、自らの業務と青年部活動を一体化した「全国大会県連大使」制度を創設し、全国の皆さんと交流と連携をより一層深めていただくことを考えています。

情報誌は、逐次アドレス <http://www.nimn.co.jp/~okuyug/>に掲載いたしますので是非アクセスしてください。

私たちの思い入れを具現化する第十七回全国大会徳島大会は是非「参集下さい」。

十二月四日、有楽町駅前東京都交通会館8F、秋田県東京事務所十三時三十分、「やあ、久しぶり」という声が迷惑なくらい飛び交い始めた。平成七年と八年の翔生塾が三々五々集合し始めて、あつと言つ間に事務始め一杯になり、お互いの近況報告が始まった。中でも、平成七年度の津田委員長が顔を出された時は単会の盛り上がりだった。単会を卒業されたOBが参加して頂いた事は、今年同輩を担当させて頂いた委員会メンバーにだけあって、前年だけの塾生にとっても大変な喜びだったのではと思えます。参加予定者が集合し、ソニーのメディアワールド移動中の山の手線の中で、お国訛の話しが車内のあちこちで聞こえて、ちょっとした騒音公害の様でした。さて、メディアワールド見学は、世の中VHS方式が独歩として、送り手のメディアメーカーのビデオカメラは、ベータ方式が未だに主流という現実を知り、世の中の不思議な世界が現に存在しているのをハッキリと確認しました。もしも興味がある方は、徳間書店刊「ソニー」未知情報」への挑戦」佐古曜一郎著を二一読下されればと思います。不思議の世界講演

ソニーの先見性を実感 翔生塾 報告

研修第2委員会 児玉 龍之介 (小林YEG)

るかに越えておりマイククロ化とコンピュータシステムの進化速度を痛感しました。メディアワールド見学後、ソニーの生命情報研究所では、日本の医療機器と技術の六十%以上が輸入に頼っており、このままでは、近い将来日本の医療は崩壊してしまつとの指摘があり、その為に、ソニーでは医療機器と技術の開発に取り組んでいるとの事でした。この事は日本社会の高齢化が更に進む二十一世紀を見据えた企業方針という事であり、A.V.機器とばかり思っていたソニーの新しい展開を知り、さすがは先見企業のソニーと感じました。又、ESPER研究所室長佐古曜一郎氏の講演では、未知の能力についての研究を行っている現状を講話して頂き東洋の思想を講話して西洋近代科学を融合して、より人間にやさしい未来科学の確立を目指しているというソニーの先端技術だけかと思つたソニーの新分野開拓意欲を強く感じました。さらに講演の中で、エッシャーの「流」と「上昇と下降」というリトグラフをOHPで移された時、我々の常識という枠が何と不確実なのかと痛感せざるを得ませんでした。これまで、我々は近代科学という世界の中で生活をしてきており、目に見える物は確実だと認識していましたが、実際に二枚のリトグラフを見て不思議の世界が現に存在しているのをハッキリと確認しました。もしも興味がある方は、徳間書店刊「ソニー」未知情報」への挑戦」佐古曜一郎著を二一読下されればと思います。不思議の世界講演

平成8年度 会報コンクール優秀作

青年部名	会報名
川口 (埼玉県)	immovation (イモベーション)
加茂 (新潟県)	YEG (エッグ) 太郎
関 (岐阜県)	トンテンカン
松阪 (三重県)	ホットライン
京都 (京都府)	まいど
奈良 (奈良県)	NEWなら太鼓
益田 (島根県)	益田商工会議所 所属
丸亀 (香川県)	BLUE WINDS
今治 (愛媛県)	今治
鹿兒島 (鹿児島県)	おーい

※優秀作が多く選考に当たり大変苦慮しました。青年部の発想、紙面の表現力等々勘案し決定いたしました。さらに優秀作はそれぞれ素晴らしく順位はつけておりません。優秀作の皆様おめでとうございました。

広報委員長(藤沢YEG) 鈴木 肇

平成9年度第15回 商工会議所青年部 全国会長研修会

静岡県 掛川道場

開催月日: 1998年2月9日(月)・10日(火)

お持ち致しております。

募集

商青連は次年度「15周年記念誌」に、左記要綱にて会員の皆さまの思いを掲載して参ります。どうぞご応募下さいませますようお願いいたします。

尚、紙面のページ数の関係上編集は当方にお任せ頂きます事、前以てご了承願います。

記
テーマ: 青年部の現状と課題
商青連の役割と課題
21世紀の青年部のあるべき姿
*上記3テーマを折り返し内容にて

原稿: 400字詰用紙1枚以上
ワープロ打ち、です・ます調

締め切り: 平成9年6月30日必着

送り先: 683 鳥取県米子市加茂町2-16
米子商工会議所内
商青連15周年記念誌特別委員会係

*事務処理の都合上郵送でお願い致します。

終了後は、講演頂いたソニーの方々とYEGマン得意分野の交流会を開催。松田会長の御家族も参加頂き、

貸切りの料理屋さんの方々がビックリする程の食欲と食欲で、話欲も負けず劣らずの夜は更けていきました。

ご参加頂いた皆様は感謝致しますと共に次回開催が楽しみです。